

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和3年10月14日（木） 11時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 令和3年度教育功労者表彰の受章者が決定しました
- ・ 令和3年度高校生フェスティバルを開催します

質疑事項

- ・ 令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果について
- ・ 国体の代替大会について

発表項目

○令和3年度教育功労者表彰の受章者が決定しました

本日2件、説明させていただきます。

1点目が、令和3年度教育功労者表彰の受賞者の決定についてです。

三重県教育委員会では県内の教育、学術の発展、文化財の保護顕彰に功績顕著な方を教育功労者として表彰しております。今年度は3名の方の受賞を決定いたしました。

お1人目は、学校教育功労の小宮健様、60才、津市在住で、三重県立四日市工業高等学校の教諭です。

お2人目は社会教育功労の山口恵照様、69歳、大台町在住の三重県社会教育委員連絡協議会会長です。

3人目が学校保健功労で、宮田保様、75歳、桑名市在住の学校歯科医の方です。

表彰式は11月2日の14時から14時20分までの予定で、三重県総合文化センター中ホールにて行います。この表彰は、昭和34年度から始まり今年度で63回目、この3人の方を含めてこれまで個人で637人、団体で144団体となります。功績概要を若干説明いたします。

学校教育功労の小宮様ですけれども、県立高等学校の工業学科の教諭で、特に自動車整備を中心とするものづくり分野の指導を行い、平成15年度から取り組んできました。高校生ものづくりコンテスト全国大会への自動車整備部門で10人がこれまで優勝、若年者ものづくり競技大会の自動車整備部門で4人が優勝に選出されております。

こうしたノウハウがなかった三重県の学校に、この教諭自ら自動車整備事業者に研修を依頼して、測定、点検、故障箇所の判定、修理といった知識・技術を生徒とともに学び、教

えることで、多くの生徒に自動車整備の魅力を伝え、自動車整備士などの地域のものづくり産業の中核を担う人材の育成に大きく貢献しております。

また課外活動としても、長く顧問を務めまして、自動車整備の基礎となるエンジン、あるいはハイブリッド車などの先端技術の習得を通して、必要な創造力を育むとともに、下級生への技術伝承や、協働性育成などにも献身的に取り組んでおります。

次の社会教育功労の山口様ですけれども、平成15年4月から、大台町の社会教育委員として町の社会教育の振興に尽力されるとともに、三重県の社会教育委員連絡協議会において、平成23年6月から副会長、平成27年6月から現在まで会長を務めていただき、社会教育委員の活動の活性化に貢献をしていただいております。他の市町の社会教育委員等との勉強会にも積極的に参加し、三重県教育委員会が主催するコーディネーター養成講座への参加を積極的に働きかけるなど、社会教育委員の資質向上にも尽力されております。

平成24、25年度は、全国社会教育研究大会三重大会実行委員会副委員長として、令和元年度は第50回東海北陸社会教育研究大会実行委員会委員長として、それぞれ大会を成功に導いてみえます。令和元年度から2年度までは、全国社会教育委員会の理事も務めたところです。

最後の学校保健功労の宮田様ですけれども、昭和62年4月から平成23年3月まで、桑名市立多度西小学校、昭和62年4月から平成28年3月まで桑名市立多度中小学校、昭和62年4月から現在まで、桑名市立多度北小学校の学校歯科医として、長きにわたって学校における歯科保健活動に従事していただき、8020（はちまるにいまる）達成を目指した生涯歯科保健に最も重要な時期の児童への指導に尽力いただいております。

また、よい歯の児童生徒審査表彰、親と子のよい歯のコンクール、図画ポスターコンクールを行い、歯科衛生に対する認識を深めることにも尽力いただくとともに、毎年開催いたします歯科保健教室において、地域の歯科衛生の知識の向上にも貢献をいただきました。

今年度は、以上3名の方を表彰させていただきます。

○令和3年度高校生フェスティバルを開催します

次に2点目、令和3年度の高校生フェスティバルの開催についてです。

県内の高校生が、日頃の学習や文化芸術活動の成果を発表いたします、令和3年度高校生フェスティバルを開催いたします。

生徒相互の交流と研鑽を深め、自己肯定感、豊かな心を育むことを目標に、特に今年度は、コロナ禍において減少した子どもたちの学びや活動の成果発表の機会を確保する観点から、昨年度は展示のみの開催となった産業教育フェアを今回初めて、イオンモール津南を会場として開催いたします。対面販売、参加型イベント、高校生とイオンの合同企画なども実施をいたします。

また高校紹介広場もイオンモール津南に会場を変更して実施するほか、みえ高文祭の舞台発表や美術工芸作品の展示についても、映像で公開するなど、対面による活動とオンライン

ンや映像を併用して、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より多くの方にご覧いただけるよう工夫をいたしました。

全体としては11月5日から7日までです。書道作品のみ27日から28日までです。場所は、三重県総合文化センター、イオンモール津南、書道作品は、四日市市文化会館です。

開催イベントとして、(1) 第31回三重県立高等学校産業教育フェアは、6日から7日まで、イオンモール津南でございます。

これは専門学科と総合学科、特別支援学校で学ぶ生徒による、農作物や物産の販売や体験コーナー、作品展示、各部会の取組を、電子看板でも紹介をいたします。

また、イオンモール津南とコラボレーションして、旅行会社との企画として、高校生が考える県内観光コースの紹介や観光案内、飲食店との企画で、鎌倉パスタさんとか、伊賀白鳳高校の提供する食材を使って、期間限定メニューを販売いただいたり、あるいはビジュアル作品コンクールに生徒が応募して、新聞折込チラシやホームページに掲載したりといったことを、今年度初めて行います。

(2) 令和3年度高校紹介広場として、6日の土曜日10時から16時まで、イオンモール津南で行います。これは、県内高校の学校案内を展示配布し、入試制度についての質問コーナーもでございます。

第42回みえ高文祭は11月5日から7日まででございます。三重県総合文化センターの大ホール、小ホール、ギャラリー等で行います。これは高等学校、特別支援学校高等部による、生徒の文化活動の成果を発表いたします。

最後の人権まなびの発表会として、11月7日13時から16時まで、三重県総合文化センターレセプションルームで、各学校での人権学習活動についての成果発表を行うものです。

なお、第64回の定時制通信制生徒の生活体験発表会は、この前の10月9日に総合文化センター中ホールでオンラインにて実施をいたしました。

それから、第29回の定時制通信制生徒の文化作品展は11月6日の高校紹介広場で、映像にて公開をいたします。

別紙として、実施内容をもう少し詳しいものをつけてございます。

私からは以上です。どうぞよろしく願いいたします。

発表項目に関する質疑

○令和3年度教育功労者表彰の受章者が決定しました

(質) 今年の学術文化功労はなかったんですか。

(答) ございませんでした。

(質) それは、学術文化功労に値する人がいなかったということですか。

(答 教育総務課長) 毎年、関係機関に照会をしておりますけれども、今年度は該当者はおられませんでした。

(質) 自動車整備に熱心でっていうのは、この小宮さんという方は、なぜその自動車整備に特に熱心なんですか。元整備士ですか。

(答 教育総務課長) 工業科の教員でございまして、自動車整備の関係の指導をしていることから、そういった分野の専門の指導に取り組んだというところです。

(質) その習った子らは、例えばどんな仕事をしているとか、そんなのはありますか。

(答) 四日市工業には自動車の関係の学科がございまして、こういったところで学んだ生徒は自動車関連の会社に就職している、あるいはまた別途進学している生徒もいますけれども、そういった生徒さんが多いです。

(質) もちろんそうだと思う前提で聞いておるんですけども、その中でも特にこういう熱心な指導を受けたおかげでこうなったとかそういうのがありますかというのをちょっと。後で。

○令和3年度高校生フェスティバルを開催します

(答) 高校生フェスティバルは今年度、コロナの中で各学校での文化祭があまりできなかつたり、昨年度は展示だけに終わったりした部分を、初めて津南を会場にして、津南の3周年ということもあって、いろんな企画もさせていただきますので、是非とも、報道いただければうれしい限りですので、よろしく願いいたします。

その他の項目に関する質疑

○令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果についてについて

(質) いじめの調査のことでちょっと伺いたいと思いますが、今回3年連続で多分上がってるんですね。いじめの件数自体は。その要因というのはこういったところにあるんですか。

(答) いじめのことにつきましては、平成30年4月から、三重県としての条例も施行させていただいてまして、それで、全国の認知件数の状況を見ますと、三重県は全国より少ないという状況がございました。それで、毎年度児童生徒へのアンケートをしておるわけですが、昨年度、そのアンケート調査の聞き方を変えたところがございます。それは、「いじめを受けているか」という聞き方をしていたんですけども、内容を、「嫌なことをされたか」というようにアンケートの問いを変えたというのがございます。あとそれから、教職員の気づきというのも大事になりますので、そういった部分で、学校において、いじめの認知のチェックリストとか、それから、いじめの早期発見のための気づきリストを作って、教職員にも、校長含めて周知をして取り組んできているということによるものかなというふうに思っております。

(質) そういったアンケートの聞き方を変えたりとか、そういったところが要因にはある。

(答) はい。

(質) ただ、認知を早くするっていう点ではいいことだとは思いますが、一方で、増加しているという現状は、一応増加していることは増加しているので、そういった点は教育委員会としてどう受けとめているかということと、今後の対応、これから減らしていく方向に、どういうふうにしていくのかということをお教えください。

(答) まず、いじめがあるということであれば、しっかり認知するということが同時に大事だということに思っております。それから、そういういじめを受けた子どもさんへの対応ということで、スクールカウンセラーの専門人材の配置も増やししながら、そういったケアもさせていただいているところです。全国的な国立教育政策研究所というところの調査があるんですけども、児童生徒に聞いたところ、いじめをした経験があるというのが9割、いじめを受けた経験があるというのが9割という調査も出ていまして、やっぱり我々はいじめはどの子にも起こりうるという思いで認知をしっかりと、その上で、しっかり早期の組織的な対応をしていくということをしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っております。

(質) それからその中身として、冷やかしゃからかい、嫌なことを言われるのが最も多いと。認知件数の割合が約5割ということです。パソコンや携帯でひぼう・中傷、嫌なことを言われるのが6.8%で、データで5番目だと。この2つとも、コロナに関連しているとか、そういったことっていうのは、中身についてももう少し詳しいその部分というのは聞いているんですか。

(答) ちょっと今、コロナにこの部分に関わるので増えたとか、割合が増えたというところまでは、ここの中では、分析としてはしておりません。1件1件の対応として、個別の中でその背景とか、それから、子ども同士がどんな行為だったかという中ではいろんな案件があると思いますけれども、全体の分析の中では、そういった分類を設けたという形ではやっております。

(質) 全体の分析としてコロナに関して何かそういうところがあるとかっていうのは、できてないということで、その個別ではあるかもしれないけれども。

(答) 個別に、そうですね。

(質) いじめの調査というのは文科省の調査とは別に県教委で独自にやっているということですか。それとも文科省のものと合わせてやっているということですか。

(答 生徒指導課長) 文部科学省に合わせて、同時に、県も行っています。内容が重なっております。

(質) 内容が重なっていて、独自の質問項目を県で設けているということですか。

(答 生徒指導課長) いじめの解消率等は、時期も変えて、6月末に実施しております。

(質) 先ほど、いじめの認知件数増の要因のところ、教職員にいじめのチェックリストだ

ったり、気づきリストを配ってらっしゃる。こちらはいつごろから始められたんでしょうか。

(答) アンケートの問い方を変えたのが昨年度の実施です。それから、同じく、今申し上げた2つのリストを配ったのが令和2年度です。それまでの、三重県のいじめの認知件数ということで、全国と比較すると小学校が低く、特に低学年で低いという状況もわかってきましたので、そういったことの、全国の平均的なところとの比較もしながら、あるいは、三重県でのこれまでの取組の中で、もう少しこうしたところをしっかりと対応すれば的確な認知に繋がるんじゃないかということも踏まえて、今申し上げたアンケートを変えたり、リストを2つ作って配布して、教員の認知力を高めるというふうなことをさせていただいています。

○国体の代替大会について

(質) 国体に関連してなんですけど。延期断念しました。県の国体局の方では、代替の大会に関する事、競技団体が開くことを支援するということがあると思うんですけども、それと分けて考えるのがいいのかわからないんですけども、例えば少年分野、高校生に向けて代替の大会の働きかけというか、どこかの団体と一緒にやってやるというようなことを考えていらっしゃったりしますか。

(答) 今おっしゃっていただいたのを、我々県教育委員会が考えているということはないんですけども、高校生のスポーツは、夏にインターハイがございまして、通常でしたら国体があって、その後、多くの競技が選手権大会というか、春の甲子園に向けて今、東海大会も今度ありますけれども、あるいはバスケットボールとか、それからラグビーの春のとか、バレーボールの、昔の春高バレーと言われるような部分があったり、あるいはテニスも種目別の、オールジャパンに相当するような全国大会がございまして、そういった種目について、それぞれの学校競技団体に一生懸命取り組ませていただいているところです。ただ一方で、種目によっては、そういった大会が、年度後半に元々なくて、この国体の、少年なりの種目とその年度の集大成的な部分もあるかと思しますので、その部分については、競技団体中心にいろんなことも考えていただいているのかなとは思いますが、我々は保健体育課というところがありますので、そういった国体局の動きとか、それから競技団体とのやりとりは、我々も、保健体育課が通常の大会の運営とかでもやっていますので、そういった情報を把握しながら、今どういう動きになるかっていうのは、もちろん十分見ながら、我々として、高校生のためにもう少しこういうことができるのではないかとすることがあれば、そういったところで意見交換したりしていくのかなというふうに思っております。単独で何かを、県教育委員会がということは今のところそういうことは考えておりません。

以上、11時22分終了